

2024年12月号

故郷の人物を知ろう

たかおか

おん こ ち しん

温故知新

高岡の近代化の礎を築いた政治家／鳥山敬二郎(1842~1926)

敬二郎は明治・大正の実業家・政治家です。度量が広く豪快な性格で、高岡木町の旧家・鳥山家（小竹屋）29代として生まれました。鳥山家の初代・時成は南北朝時代の鳥山城（群馬県）の城主であったといえます。その後、鳥山家は利長に招かれ木町で廻漕業を営み肝煎職などを担いました。

1869年の飢饉では、貧民救助に尽力し、高岡の5,000人もの人を助けました。その功績により翌年、藩から高岡総司肝煎に任命されます。翌年、農民に肥料を販売する「豊饒社」を設立。後に藤井能三らと高岡米商会所を設立するなど経済界でも活躍します。

廃藩置県後の1874年、高岡城跡（古御城）・桜馬場が民間に払い下げられた際は公園指定に奔走（桜

馬場は自社で買い取り、のち市に寄付）。のち公園に監視人を置き、維持基金を創設、瑞龍前田公遺徳碑を建造するなど公園整備に尽力しました。

1882年、中等学校「越中義塾」を創設。1892年には官営北陸鉄道（現あいの風とやま鉄道）敷設に活躍します。1902・04年の2度衆議院議員となります。1913年、高岡市長に就任し、2期8年の間、北鮮航路の開設、中越鉄道の国営化、高岡高等商業学校の誘致など高岡の近代化の基礎を築きました。1921年、任期満了により職を辞すると10ヶ月も市長が空席となるなど当時の存在の大きさがうかがえます。（仁ヶ竹主幹）



肖像（『鳥山敬二郎行状録』より）

問合先 博物館 ☎20-1572